

京都大学生協
「京大的作家の在学時の愛読書」フェア



[読書推進]

取り組み概要

日時：1月ごろ～
 場所：ブックセンターネ
 参加者数や組合員の反応
 フェアを知った方からの問い合わせが多
 数寄せられている。

背景や概要：京大生協の経営がかなり悪化していることを受けて、京大出身の作家に、京大在学時に愛読していた本を選書してもらい、フェアとして販売することによって、京大生協の店頭を盛り上げたいと考え、実施された。

「京大生協の灯を消さない」ために

POINT.1 フェアの経緯と、フェアに込められた想い



本取り組みは、京大出身の詩人最果タヒさんが京大生協の状況を知り、発起人として始められました。出版社リトル・モアと京大生協ショッフルネが、協力し合いながらリーフレットの作成や、作家のコメントを集めました。以下はリーフレットの文章の一部です。

「大学生協は、学生生活を奥行きあるものにする重要な存在であり、出身者にとっては思い出の場所でもあります。今このときだからこそ、京大生協の店頭を盛り上げたいと考える京大出身の作家たちによる、選書フェアを実施する運びとなりました。」（選書フェア制作委員会）京大生協が昔から愛され、組合員に大切にされてきたことを感じられますね。

POINT.2 フェアの広がり

本取り組みの反響は大きく、多くの組合員への周知と利用につながっています。

Twitterでは、787件の「いいね」と353件のリツイートが寄せられています。作家からのコメントをアップすることで、店舗にすることができない人への周知も行いながら、より多くの組合員が関心を持つきっかけを作っています。

利用状況についても1月単月で216冊、2月単月で242冊の実績を挙げており、取り組みを利用につながることができています。



POINT.3 大学生協は組合員組織だ！



フェアコーナーの本棚の一番上段には障子風のPOPが置かれています。これは「京大生協の灯を消さない」をコンセプトに提灯で明かりを灯すことを意味しています。

京大生協は決して経営が良い状況とは言えません。そんな京大生協の経営危機に対して、組合員やOB・OG、出版社が一丸となって取り組み、生協店舗を盛り上げていることから、改めて大学生協は組合員が主体となって作る組織であることを再確認できます。また、このような状況下だからこそ、つながりを活かして取り組みを広げたことで、たくさんの組合員の参加を促すことができたのではないのでしょうか。